

一般社団法人 倫理研究所
平成 29 年度
年次報告



2016-2017
ANNUAL REPORT

一般社団法人倫理研究所 平成 29 年度 年次報告 ANNUAL REPORT

平成 28 年 9 月 1 日～平成 29 年 8 月 31 日

CONTENTS

4	活動トピックス
…	地球倫理の推進
6	… 「地球倫理推進賞」の贈呈
8	… 米国初の倫理法人会が誕生
9	… 台湾に広がる倫理経営の輪
…	「法人スーパーバイザー会」海外初開催
10	… 富士教育センター開設50周年
12	… しきなみ子供短歌コンクール
13	… 教育創生フォーラム
14	… 丸山奨学金による支援
…	東日本大震災教育支援基金
15	… 社会教育功労者表彰
…	他団体への寄付・協賛
16	倫理の研究と成果の発信
18	家庭倫理の普及
20	企業倫理の普及
22	文化芸術活動の普及
23	海外の普及
24	倫理を学ぶ多彩なセミナー
26	出版物の刊行
29	組織概要
30	… 家庭倫理の会・倫理法人会拠点数
31	… 主要施設・沿革

主たる事務所を千代田区三崎町から同区紀尾井町へ移転して1年。歴史の重みと風格を感じさせるこの新天地で、平成29年度も「地球倫理の推進」「日本創生」をスローガンに掲げ、「さらなる『新』に挑む」の基
本方針のもと、計画通りに堅実に諸事業・諸活動を力強く展開しました。

対外的に「倫理文化研究センター」と称して2年目となる研究部門では、倫理

文化学の構築を主軸に純粋倫理と日本文化の本質に迫る研究を推進しました。また、家庭教育を推進する外部団体との交流を深めながら、研究体制のさらなる充実をめざしました。研究成果は「倫理研究フォーラム」の開催や、『倫理』『倫理研究所紀要』などの定期刊行物、ホームページで発表するとともに、国内・海外での国際会議や研究学会などでも積極的に発信しました。

普及部門の生涯局では、「つながる」をテーマに家庭倫理講演会を全国185カ所で開催する一方、通算30回実施し今回締め括りとなる「教育創生フォーラム」を全国5カ所、「子育てセミナー」も全国で1733回開催。青少年・子育て世代・シニア世代を効果的に「つなぐ」普及を展開し、健全な家庭づくりと地域の教育力向上に努めました。

文化活動は、これまでと

同様に短歌と書道の教育を全国で展開。また、「第12回しきなみ子供短歌コンクール」および表彰式を開催しました。本事業は伝統文化の継承だけでなく、子供達の国語力・感受性などの向上に貢献する公益事業として、教育関係者からも高く評価されています。

同じく普及部門・法人局では、「堅実な普及活動による確実な成果」を実現すべく、大目標である会員社

倫理をアジアへ、世界へ――

――さらなる『新』に挑んだ平成29年度。――

数10万社にふさわしい組織体制の確立へ向けて、組織基盤と倫理指導力の強化に取り組みつつ、幹部会員が一丸となって倫理経営の普及・教育に尽力しました。倫理経営講演会は「大転換の時代――『新』に挑む――」をテーマに全国676カ所で開催。倫理法人会の拠点数は692カ所、会員企業数は約6万5000社となりました。

教育部門では、富士教育センターにおいて、受講生の「まごころ」を見つめ直して倫理実践力を養成する、生活倫理、企業倫理、青少年育成の各種セミナーを実施。そのほか、海外（中国・台湾）からの受講生を対象とした研修や創始者とその時代を学修する

セミナーを行ないました。また、富士教育センターは開設50周年という節目を迎え、大改修工事をはじめとした記念事業を実施。受講環境のさらなる充実を図りました。

出版部門では、新刊『つながる』（丸山敏秋著）『生と死』（倫理研究所編）、新装丁『結婚叢書』『万人幸福の栞』（丸山敏雄著）を刊行。定期刊行物として、月刊誌『新世』を計画通り刊行しました。

広報活動では、「第20回地球倫理推進賞」の国際・国内活動部門について各1団体を選出して贈呈式（於・新横浜プリンスホテル）を開催しました。また、平成23年4月に開設し

た「東日本大震災教育支援基金（りんりん基金）」の奨学サポートでは、第1期奨学生8名の給付期間が満了しました。そのほか、会員へ向けた広報活動として毎月『倫研新報』を刊行し、倫理研究所主要行事および全国・海外各地の活動状況や会員の実践・普及体験を掲載しました。

国際部門では、中国内蒙古自治区クブチ沙漠に創成した「地球倫理の森 恩格貝」に第64次青年隊を派遣。中国の青年75名が合流し、共同して行なった植林活動や弁論大会を通して、日中友好・交流の輪がさらに広がりました。また、「地球倫理の森 ウランブハ」創成予定地には、第65、66次隊を派遣。中国での総植林

数は41万6766本となりました。そのほか、アジア諸国の留学生7名、中国・内蒙古大学学生65名に「丸山奨学金」を支給しました。昨年度、海外初となる倫理法人会を開設した台湾には定期的に講師を派遣し、普及、教育、組織運営などを支援。現地での企業研修も実施し、倫理経営の実践企業の育成にも貢献しました。また、平成28年11月に「南カリフォルニア倫理法人会」を設立したほか、新たにオレンジカウンティ（米国）およびサンパウロ（ブラジル）でも倫理法人会の設立準備を進めました。

本年次報告では、平成29年度の事業について、写真や図表を多用して包括的にご紹介します。



平成 29 年度
活動トピックス

民間の社会教育団体として、
さまざまな生涯学習活動を
展開しました。



沙漠緑化活動を通した、
日本と中国の青年による交流が、
10 周年を迎えました。

地球倫理の推進

01 沙漠緑化事業の推進

平成11年にスタートした「地球倫理の森」創成事業。倫理研究所では、植林地である中国内蒙古自治区恩格貝のクブチ沙漠で、18年にわたり32万本を超える植林を行なってきました。また、平成27年度からは、同区バヤンノール市のウランブハ沙漠においても、第2の地球倫理の森の創成をめざして、植林を中心とした沙漠緑化活動を推進しています。

植林活動を通した日中青年交流10周年にあたる平成29年度は、4月28日から5月5日にかけて、「地球倫理の森 恩格貝」に第64次青年隊を編成し派遣しました。日本からは全国より選抜された青年会員34名に、倫理研究所のスタッフ10名が同行。中国側は内蒙古大学、北京外語大学など8

つの大学から、日本語を専攻する学生と引率者75名が参加。日中総勢119名の沙漠緑化隊となりました。

はじめに隊員達は、講義を通して「地球倫理」とその推進活動の意義について学ぶとともに、恩格貝の沙漠開発の功労者で鳥取大学名誉教授の故・遠山正瑛氏の功績や情熱に触れ、植林への士気を高めました。

その後、2日間にわたって植林を実施。雷雨と砂嵐に見舞われたものの、限られた時間の中で心をこめて植林・育林活動を行ない、合計520本の苗木を植えました。

翌日、「第10回日中青年沙漠交流会」を開催。これまでの交流あゆみを映像で振り返り、その後、両国の代表者により「沙漠緑化と私」と題して熱い弁論が繰り広げられました。

また、「地球倫理の森 ウランブハ」には、第5、6次（通算65、66次）隊を派遣。中国での総植林数は41万6766本となりました。

第6次隊には、東日本大震災の被災者であり、倫理研究所が奨学金を支給している「りんりん基金 第4期奨学生」の一人である鈴木沙也佳さん（19歳）が参加。「私が植えた木が、何十年後には、沙漠の地に根付いて大きくなることを想像するだけで興奮します。本当に尊いことだと思います。倫理研究所の会員

の皆さまとの触れ合いを通して、物事を前向きに考えられるようになりました。将来社会に出たときにも自信につながる体験になりました。心から感謝します」と喜びを語りました。



りんりん基金第4期奨学生、鈴木沙也佳さん





地球倫理推進賞のあゆみ

- 第1回 地球緑化の会
- 第2回 日本沙漠緑化実践協会
- 第3回 財団法人日本さくらの会
- 第4回 国際ボランティアの会
- 第5回 財団法人オイスカ
ベトナムの「子どもの家」を支える会
- 第6回 カラ=西アフリカ農村自立協力会
劇団どら
- 第7回 NGO カトマンドゥ
円福友の会（特別賞）
- 第8回 NPO 法人アジアチャイルドサポート
- 第9回 NPO 法人ネパール・ムスタン地域開発協力会
- 第10回 NPO 法人地球市民の会
- 第11回 【国際】バーンロムサイ
【国内】日本熊森協会
- 第12回 【国際】NPO 法人テラ・ルネッサンス
【国内】牡蠣の森を慕う会
- 第13回 【国際】NPO 法人熱帯森林保護団体
【国内】NPO 法人グリーンウッド自然体験教育
センター
- 第14回 【国際】NPO 法人地球のステージ
【国内】該当なし
- 第15回 【国際】NPO 法人上総掘りをつたえる会
【国内】NPO 法人アサザ基金
- 第16回 【国際】NPO 法人シャンティ山口
【国内】金華山シカ行動研究グループ
- 第17回 【国際】特定NPO 法人かものはしプロジェクト
【国内】認定特定NPO 法人 カタリバ
- 第18回 【国際】NPO 法人JYMA 日本青年遺骨収集団
【国内】網地島ふるさと楽好
- 第19回 【国際】片桐和子・片桐昭吾氏
【国内】NPO 法人森の蘇り



贈呈式では、国際地雷処理・地域復興支援の会・高山良二理事長【右】、鎌倉てらこや・上江洲慎理事長【左】による記念講演が行なわれた

02 「地球倫理推進賞」の贈呈

「第20回地球倫理推進賞」贈呈式を、平成29年2月25日、新横浜プリンスホテルで開催しました（後援／文部科学省、産経新聞社、全国民間放送ラジオ局37社）。

応募総数61件（国際活動部門23件、国内活動部門38件）の中から、厳正なる審査・選考を経て、国際活動部門は「認定NPO法人 国際地雷処理・地域復興支援の会」（理事長・高山良二氏）、国内活動部門は「NPO 法人 鎌倉てらこや」（理事長・上江洲慎氏）を表彰しました。併せて、文部科学省生涯学習政策局・渡部徹社会教育官から文部科学大臣賞が贈られました。

「国際地雷処理・地域復興支援の会」は、地雷処理と地域の復興を目的に、カンボジアのバタンバン州にて活動を展開。代表の高山氏は、自衛隊在職中のカンボジアPKO派遣を機縁に、定年退官後、他団体での地雷処理活動を経て本会を設立。

地球倫理の推進に、実践面で貢献している団体を顕彰しました。

と、日本の将来を託す若者の育成を目的に発足。寺を活動主体とし、三つの教育現場（家庭・学校・地域）と三つの世代（子供・若者・大人）を有機的につなぎ、地域の教育力の活性化をめざしています。対象は鎌倉市周辺の小・中学生及び保護者で、大学生が主体となって企画・運営し、合宿事業や鎌倉の文化や歴史に触れる体験学習を実施しています。これまでに2万8700人が参加。地域総がかりの教育ボランティア活動のモデルケースとして、同法人の概念は全国40カ所に広がっています。



平成23年より、カンボジア政府機関の地雷対策センターと協力して、「住民参加型」の地雷処理を実施し、これまでに988個の地雷と不発弾を処理。地雷原を安全な土地に転化しました。除去された土地では、井戸や学校の建設、地元住民の雇用促進のために企業を誘致するなど、復興支援にも尽力しています。



「鎌倉てらこや」は、不登校・引きこもり・貧困等の教育環境の改善



ヒロ大島理事長を中心に、より多くの「倫理経営の模範企業」を育成すべく、積極的に活動を推進している

地球倫理を、
倫理経営をアジアへ、
世界へー

台湾に広がる倫理経営の輪



台湾の会員企業「台湾 KissMe 化粧品」で行なわれた企業研修では、社員が実際に富士高原研修所で行なわれている研修を体験し、好評を博した

04 倫理経営企業を育成
海外初の倫理法人会として平成28年5月に誕生した亜細亜台湾企業倫理促進会。平成29年度も倫理研究所では定期的に講師を派遣するなど、積極的に活動を支援しました。なかでも台湾人経営者を対象にした「企業倫理講座」「倫理経営基礎講座」、また「倫理経営の模範企業」の育成をめざして開催した企業研修が好評を博しました。
(関連記事23頁)

05 「法人スーパードバイザー会」海外初開催

平成28年10月14日、16日、海外で初となる「法人スーパードバイザー会」を台湾・台北市にて開催。亜細亜台湾企業倫理促進会との交流を目的としたもので、日本からは法人スーパードバイザー58名、本部スタッフ6名が参加。台湾からは同会のメンバー14名が参加し、共に倫理経営を学び実践する同志として親睦を深めました。平成29年1月には、法人アドバイザー会を同じく台北市にて開催。法人アドバイザー49名、本部スタッフ7名が参加し、交流会や同会の活動紹介を通して実践意欲を喚起しました。



認可書を掲げる飯田隆会長(左)と、行動旗を掲げる遠藤昭彦事務長(右)

米国初の倫理法人会が誕生

03 「南カリフォルニア倫理法人会」設立

平成28年11月12日、米国初となる倫理法人会「南カリフォルニア倫理法人会」の設立記念式典が、ホリデイ・イン・トランスで開催され、日本から祝福に訪れた57名を含め、160名が参加しました。
平成26年4月に同会の前身となる「倫理ビジネスネットワーク」が発足。各種セミナーや名刺交換会、異業種交流会などを通して倫理運動への理解と普及を図ってきました。平成28年4月より、日本と同じスタイルで毎週1回「経営者モーニングセミナー」を実施し、6月からは毎月1回「倫理経営セミナー」を開催。発足当時のメンバーは10名に満たなかったものの、現在は多くの仲間が積極的に「倫理」を学ぶ会に発展しました。
式典で丸山理事長より認可書を受けた飯田隆会長は、「今後はすでに会員が在籍しているオレンジカウンティ、ウエストハリウッド、サンディエゴに倫理法人会を分封し、さらにはシアトル、テキサス、ニュー



ヨークなど、全米各地に倫理経営の輪を拡げていきたい」と抱負を語りました。(関連記事23頁)



旧富士高原研修所 (1966～2001)



旧富士倫理学苑 (1981～1999)



現富士高原研修所と象徴庭園



富士教育センター 開設50周年

倫理の学び舎が誕生して半世紀。
地球倫理の発信地として、
さらなる飛躍を誓い合う――。



式典では、最初に映像で50年の歴史を振り返った



祝辞を述べる印野郷土振興協会・勝間田政道理事長



祝賀会で祝辞を述べる若林洋平御殿場市長



ロビーから望む富士山

その後、(株)内藤建築設計事務所の神林哲也副所長と印野郷土振興協会の勝間田政道理事長より祝辞をいただきました。神林氏は内藤廣氏の祝辞を代読、丸山理事長の要請で「結び」をキーワードに設計・デザインしたこと、使用した木造架構の技術は世界でも類を見ない完成度の高いものであることを述べました。

祝賀会には若林洋平御殿場市長が来臨し、「富士教育センターは御殿場市の誇りです。この素晴らしい施設を活用した社会教育活動に一層邁進されるよう期待しています」と祝辞を述べました。

式典では、50年のあゆみを映像で振り返るとともに、丸山理事長が挨拶に立ち、「霊峰富士を間近に望む素晴らしい環境を活かし、地球倫理の発信地として、ここから世界へ向けて純粹倫理を広めたい」と、今後同センターが果たすべき使命を述べました。

平成13年、建築家・内藤廣氏の設計により、同学苑と研修所を統合した新富士高原研修所が落成、平成23年には、建物と庭園全体の調和を意匠した「ランドデザイン」に基づく整備事業が完了しました。そして、竣工から15年目、開設50周年の節目にあたる平成28年に記念事業として施設の大規模改修工事を実施しました。

センターの核をなす教育施設・富士高原研修所は昭和41年3月1日に竣工。昭和56年には経営者、社員、青少年のセミナーを行なう富士倫理学苑が完成しました。

市に構える富士教育センターの開設50周年記念式典が、平成28年11月27日、同センターで開催され、役員をはじめ御殿場市の名士など60名が参加しました。

06

開設50周年式典を開催



高知市文化プラザかるぼーとには教育関係者を含む 620 名が来場し、最後まで熱心に聴講した

家庭教育をよりよいものに「創生」し、
教育運動ネットワークを
全国に拡げるべく開催。

家庭教育の「創生」へ向けて

08

教育創生フォーラム

日本の家庭教育を「創生（創造的に再生）」することを目的に、平成25年より毎年開催してきた「教育創生フォーラム」を、平成29年度は全国5カ所で開催し、通算30回を節目に締めくくりました。メインテーマは一貫して、「よみがえれ日本の教育力ーそれは家庭からはじまるー」。

倫理研究所・丸山敏秋理事長の

基調講演に続

き、学校・地

域・行政など

の教育に携わ

る有識者と社

員教育に関わ

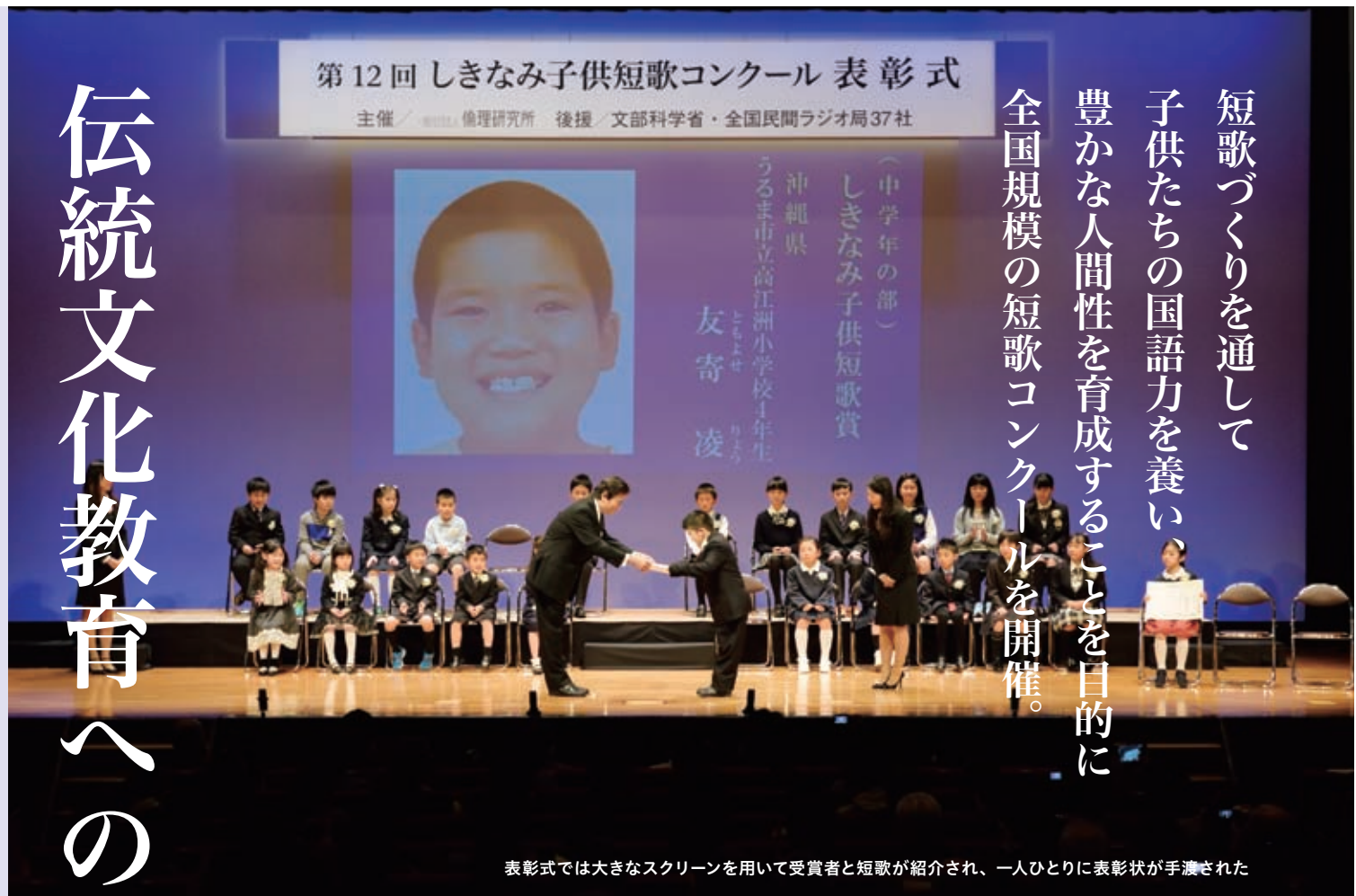
る経営者によ

【左上】大崎博澄氏（たんぼ教育研究所代表）
【右上】大野香葉美氏（学校法人平成学園理事長）
【下】西森義信氏（株式会社建商代表取締役）



開催日	開催会場	参加者数
平成 29 年 4 月 23 日	（高知県）高知市文化プラザかるぼーと	620
5 月 21 日	（東京都）西新井文化ホール	851
6 月 3 日	（宮崎県）宮崎市民プラザ	499
6 月 25 日	（新潟県）燕三条地場産業振興センター	910
7 月 9 日	（宮城県）仙台国際センター	707
合計	全国5カ所	3,587

るパネルトークを行ない、それぞれの地域における家庭教育の重要性を訴えました。
各開催地においては教育委員会をはじめ、教育・行政関係者、地域諸団体の代表者を多数招待し、多くの共感を得ました。



表彰式では大きなスクリーンを用いて受賞者と短歌が紹介され、一人ひとりに表彰状が手渡された

伝統文化教育への取り組み

07

しきなみ子供短歌コンクール

短歌づくりを通して
子供たちの国語力を養い、
豊かな人間性を育成することを目的に
全国規模の短歌コンクールを開催。

「第12回しきなみ子供短歌コンクール」を開催し、全国の小学生6万4133名（1282校）より応募がありました（後援／文部科学省、全国民間放送ラジオ局37社）。都道府県別の予選を経て平成28年12月8日の最終選考会では、東京成徳大学教授・青柳隆志氏、歌人・加藤千恵氏、倫理研究所参事・大木千鶴子氏の3名が特別選考委員を務め、しきなみ子供短歌賞（小学校低学年・中学年・高学年の部）の3名、特選20名、入選354名、佳作536名が選出されました。
平成29年3月5日に「ニッショーホール」（東京・虎ノ門）で行なわれた表彰式では、受賞者23名と受賞者の家族および教育関係者112名を含む合計700名が出席。しきなみ子供短歌賞の受賞者3名には、文部科学省生涯学習政策局社会教育課課長補佐・佐藤秀雄氏より、「文部科学大臣賞」が授与されました。



特選の賞状を手渡され、満面の笑みで披露する中村色花さん（1年生）

しきなみ子供短歌賞受賞作品

低学年の部／紅野那緒／東京・2年生
七年も土にもぐってねむってた今年のセミはどうきゆうせいだ

中学年の部／友寄凌／沖縄・4年生
ぼくたちの思い出つまった旧校舎大雨にぬれ泣いてるようだ

高学年の部／大山宗一郎／埼玉・5年生
どちらさまぼくにたずねるおばあちゃんこんどはぼくがさきえてあげる

09 丸山奨学金による支援

平成29年度も「丸山奨学金」200万円を中国内蒙古大学（65名）に支給しました。併せて4カ国7名のアジア諸国の留学生（丸山奨学生）にも奨学金総額550万円を支給し、勉学を支援しました。丸山奨学生は将来日本との学術・文化などの友好交流の架け橋として

平成29年度 丸山奨学生（7名）

国籍	研究機関	研究テーマ
中国	関西大学	日本語文法教育の史的研究
中国	総合研究大学院大学	茶道に見られる日本の美意識
中国	大阪大学大学院	日本語複合動詞の成立条件
中国	東北大学	日本語動詞の派生機能
カンボジア	神戸学院大学	国際ボランティア教育
カザフスタン	筑波大学	日本語教師の自律学習
台湾	立教大学	情報を活かす経営戦略

期待される人材であり、各自の専門研究テーマを探究するとともに、「地球倫理」を富士高原研修所で体験学習し、日本の精神文化の理解を深めています。



内蒙古大学・李副学長（左）へ奨学金を贈呈する、倫理研究所中国事務所・于振忠所長

10 東日本大震災教育支援基金（りんりん基金）

被災により両親や家族を失った遺児や若者たちの勉学を援助し、教育環境の整備に役立てることを目的と

した教育支援基金を「タグボート支援」「奨学サポート」の2分野で活用しました（平成29年8月31日時点で総額4億1883万円支出）。なお、同基金は、平成23年4月に開設し、平成28年3月11日をもって寄付の受付は終了しています。

「タグボート支援」

被災地において子供の教育支援活動を行なうボランティア団体への支援を実施。平成23年11月の支援開始以来、23団体に計1億3963万円を支給しました。そのうち平成29年度は、「NPO法人子どもグリーンサポーターステーション（旧・仙台グリーンサポーターステーション）」に437万円を支給しています。当初の計画通り、震災から満5年となる平成29年度をもって「タグボート支援」は完了しました。

「奨学サポート」

被災による経済悪化によって大学進学が困難となった高校3年生を対象に、①入学支度金②授業料③生活

費を給付。返済義務のない奨学金制度として、第1期生（平成25年度）から第4期生（28年度）まで計48名の大学進学・大学生活をサポートしています。これまでの奨学金総額は2億7920万円、そのうち平成29年度は8299万円を給付しました。また、第1期生のうち6年制大学在学中の2名を除く8名の給付期間が満了しました。



東日本大震災教育支援基金

海外および国内における教育支援

倫理普及の後方支援として

11 社会教育功労者表彰

「平成28年度社会教育功労者表彰式」が平成28年11月10日、文部科学省講堂で行なわれ、倫理研究所顧問であり都機工（株）会長の長橋護氏が受賞されました。長橋氏は昭和41年に千葉県松戸市に同社を創業し、ボルト1本から大型工作機器まで扱う産業機器専門商社へと発展させてきました。昭和54年に倫理法人会に入会すると、ひたむきに倫理経営の実践に取り組み、「自身は社員



社会教育功労者として表彰された長橋法人局顧問。夫婦で記念撮影

の父親」として人材づくりに尽力。社員同士が支え合い助け合う社風を築き上げました。平成12年から千葉県倫理法人会会長、法人スーパードライザーを歴任され、平成20年より24年まで理事として、その後は法人局参事、法人局顧問として倫理運動に尽力されました。また、地元の養護施設や国境なき医師団への支援を通じて、社会貢献活動も積極的に行なってきました。そうした貢献が評価されての受賞に、長橋氏は「本賞に恥



伊勢神宮より感謝状を手渡された丸山理事長

12 他団体への寄付・協賛

平成29年4月5日、丸山理事長が伊勢神宮を訪れ、「伊勢神宮式年遷宮御造営資金」を寄付しました。同寄付は、平成8年より毎年



後藤元秀豊前市長に目録を手渡す和田毅理事

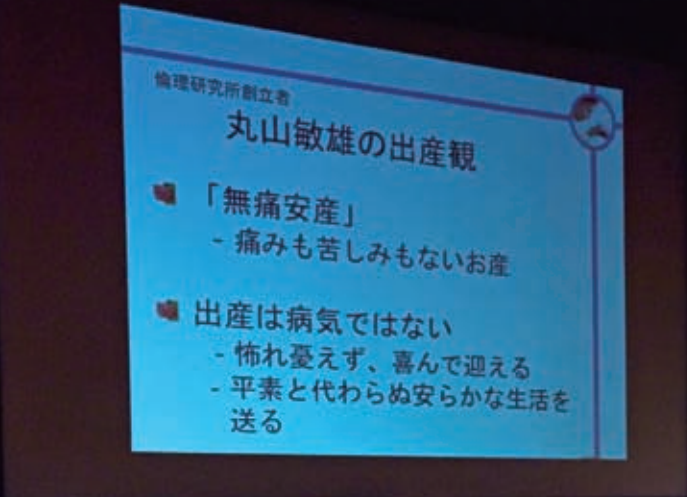
行なっています。そのほか、がん研究の領域において特に優れた業績をあげた学者・研究者に対する学術賞の贈呈や研究奨励助成などを行なっている「公益財団法人高松宮妃癌研究基金」「豊前市芸術文化振興事業協賛金」などへの寄付・協賛を行ないました。同癌研究基金には平成6年より、豊前市には昭和63年より毎年寄付を行なっています。

（公財）高松宮妃癌研究基金・廣澤眞信常務理事に寄付金を贈呈



（公財）高松宮妃癌研究基金・廣澤眞信常務理事に寄付金を贈呈

倫理の研究と成果の発信



研究フォーラム in 茨城では、丸山理事長【上】がコーディネーターを務め、松本亜紀専門研究員【左】、家庭倫理の会相模原市の三原真希子育て委員長【右】とトークを実施。活発な意見が交わされた

対外的に「倫理文化研究センター」と称するようになって2年目となる研究部門では、研究体制のさらなる充実を図り、純粋倫理と日本文化を中心とする研究を推進・実行しました。また、定期刊行物・出版物・倫理研究フォーラムなどを通して研究成果を広く発信し、倫理の普及・教育・出版に資する知的資産の拡充に努めました。

研究の方向と重点

純粋倫理の基礎的・専門的研究、倫理文化の専門的研究を積極的に進し、純粋倫理の体系化ならびに「倫理文化学」の構築をめざす研究を行いました。

倫理文化に関する専門的研究

研究者	研究テーマ
内田智士	利他性と協調および幸福感の研究、公共財形成問題と道徳規範の研究
高橋徹	太陽系内の惑星の運動周期とその法則性の研究、人間の自律性の喪失および回復に関する研究

寛ボルデー	日本の伝統文化（特に無形文化遺産）、食文化および物質文化の研究・調査を通して、日本文化の特質と神髄を考察
松本亜紀	出産体験に着目した子育て支援のあり方に関する考察、および「おむつなし」による排泄ケアの実践と普及のための研究
平良直	沖縄米軍政府占領期の宗教施策に関する研究、および宗教教団の信仰継承、伊波普猷の思想の宗教学的意味の探究などの研究
石井雅之	愛の実践と忍耐の関係の研究、徳目の秩序に関する比較論的研究、家族倫理の比較論的研究
津島晃一	中小企業の所有と経営の分離に関する研究、経営者保証と事業承継に関する研究
丸山貴彦	ホリスティック教育における身体性と「こころ」に関する研究、習慣と文化創造に関する研究
李致億	李退溪の人生論、社会思想、工夫論（敬）、孔子の学習論などについて研究
龔穎	グリーン倫理学の意義、近代中国における結婚観の変遷、「即行」の実践によるフロク拉斯ティネーション（遅延症）改善の可能性等について考察

倫理意識調査の実施

現代日本の企業経営における倫理

に関する意識を把握するため、経営者と一般個人の「倫理経営意識」について調査しました。

- ◇調査企画／倫理研究所研究センター研究フェロー海野裕（マーケティングプランナー）
- ◇調査項目／倫理経営に関する9つのコンセプトへの共感度、重要度、達成（実践）度、古今東西の倫理観をまとめた「倫理25」への共感度など
- ◇調査対象／全国企業経営者400名、全国20歳以上69歳以下の男女1000名

研究成果の発信

倫理研究フォーラムの開催

開催日	平成29年5月14日
場所	宝山ホール（鹿児島県文化センター）
来場者数	1440名
テーマ	新しい自分の発見——より良く、創造的に生きるために——
研究発表	①「日常における自分を再発見しよう」内田智士 ②「自己承認を求めない生き方」高橋徹

開催日	平成29年6月10日
場所	ひたちなか市文化会館
来場者数	1345名
テーマ	「つながる」と「親」——響き合う（いのちの絆）——
研究発表	「子育て・子育てを通じた『つながり』の回復」松本亜紀

『倫理研究所紀要』（年刊誌）

純粋倫理の基礎的・専門的研究、倫理文化に関する専門的研究など、多様な研究成果を発信しました。

通巻	第26号
発行部数	1550部

掲載論文

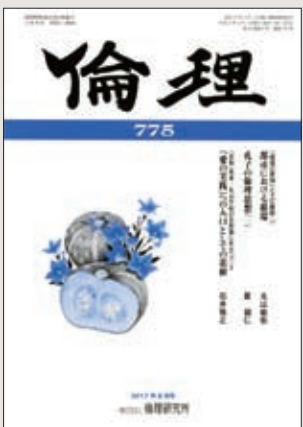
執筆者	テーマ
丸山敏秋	ピーター・ドラッカーが発見した日本
高橋徹	自律性の喪失
寛ボルデー	モノを考える
平良直	新しい始源の探究と伊波普猷
李致億	現代社会における為己之学
ベン・アミ・シロニ	《論説》イスラエルにおける日本研究
津島晃一	支配する非親族承継の経営者



『倫理』（月刊誌）

純粋倫理の基礎的・専門的研究、倫理文化の専門的研究に関する諸論考を掲載しました。

通巻	765号〜776号
発行部数	9万2300部



『倫理文化研究叢書』（書籍）

「倫理文化学」構築の一環として、『倫理文化研究叢書』（No.6）を発行しました。書籍タイトルは『生と死——倫理文化研究センターシンポジウム二〇一五』。

掲載論文

執筆者	テーマ
平良直	生と死（連続性）
嚴鏡仁	死への凝視——「莊子」
李致億	伝統喪・祭礼の意味から見た儒教の死の観念
龔穎	死は生なり——林家における『文公家礼』「葬送礼」の実践を例にして
韓睿嫻	朝鮮時代における死についての理解——生死、鬼神、祭祀の概念を中心に
松本亜紀	医療化以前の出産における介助者の役割に関する一試論
寛ボルデー	モノの生と死
内田智士	懲罰制度の発展における「社会的死」の必要性
高橋徹	月と中有一——生と死の境目
津島晃一	中小企業の退出と存続

研究資料の蒐集と提供

実践体験事例1331篇、研究論文237篇を蒐集・分類整理・保存し、併せて教育・普及・出版の各部門の要望に応じて、情報提供を行なっていました。

倫理資料館の運営・管理

純粋倫理の基礎的・専門的研究ならびに倫理文化に関する専門的研究に資する資料の充実化を図り、創始者の遺品蒐集・保存に努めました。

専門図書 の蒐集

倫理・道徳に関する専門図書計1335冊（新刊書608冊・古書727冊）、丸山竹秋蔵書3冊を受け入れ、分類・整理しました。

研究機関および研究者との交流

「日本家庭教育学会」「人体科学会」「日本国史学会」など諸学会の活動に協賛し、専門家との交流を深めました。道徳教育および家庭教育を推進する関係団体、ならびにその研究者との積極的な交流を図り、国内・海外の国際会議・研究学会においても研究発表を行いました。

家庭倫理の普及

平成29年度の生涯局は「つながぐ」をキーワードに、会組織のつながりと世代間のつながりを強化しながら、柔軟かつ堅固な組織づくりを進め、計画的な普及活動を展開しました。

家庭倫理の会は「家庭倫理講演会」と「子育てセミナー」を連動させ、健全な家庭づくりと地域社会の教育力向上・発展に貢献しました。未来を担う青年と子育て世代にプロジェクトチームを結成し、人材の発掘・育成に力を入れたほか、「子育て発表大会」「シニア弁論大会」の開催などを通して、各世代を倫理でつなぎ、ゆるぎない倫理実践の基盤づくりを推進しました。

家庭倫理講演会

「つながる」をテーマに、全国の家庭倫理の会で開催（後援／文部科学省）。揺るぎない家族の絆を育むための夫婦・親子のあり方を、具体的な実践や体験を交えて提言しました。

開催会場	185カ所
参加者数	5万4197名

子育てセミナー

各家庭倫理の会において①妊産婦②乳幼児期の子を持つ親③児童期の子を持つ親④思春期の子を持つ親を対象に開催し、子育てに悩む若い父母層への純粋倫理の普及に努めました。また、お世話役である子育て正副委員長の研修会を平成28年12月に



「学び・遊び・娛」を柱とする子供倫理塾。子供たちは明るく「5アクト」の実践に取り組んだ

子供倫理塾

各家庭倫理の会において小学生を対象に開催、純粋倫理についてやさしく解説するとともに、挨拶や後始末など「5アクト」の実践を奨励し、純粋倫理を基本とした生活習慣を学びました。

開催回数	968回
参加者数	6752名

おはよう倫理塾

毎朝5時より全国各地で開催し、幅広い年齢層が参加しました。参加者は純粋倫理の学習ならびに実践を通して豊かな人生を送るべく、相互研鑽、相互啓発に努めました。

開催会場	501カ所
参加者数	201万2715名



シニア弁論大会

シニア世代が豊富な人生経験と、純粋倫理の学びと実践により培った信念を披歴し、各世代を倫理でつなぐことをめざして、家庭倫理の会単位または県単位で開催しました。

開催回数	23回
参加者数	3541名

純粋倫理基礎講座

全国の家庭倫理の会会員を対象に年間6回開催しました。純粋倫理の基本をテキストに基づいて学習し、理解を深めるとともに実践意欲を高めました。

開催回数	1254回
参加者数	3万4075名

全国一斉清掃

地域行事へ積極的に参加し、地域の活性化に貢献しました。平成28年10月に全国主要都市の公共施設（駅周辺、公園、国道、河川敷など）で大規模な清掃を実施しました。

開催地	196カ所
参加者数	5409名



青年活動

沙漠緑化の植林活動

平成29年4月29日～5月5日、中国・内蒙古自治区恩格貝クブチ沙漠で植林活動を行いました。日本から34名の青年が参加し、中国から8大学75名の大学生が参加。スタッ

フを含む総勢119名が地球倫理の実践活動として植林を行ない、さらに「第10回日中青年沙漠交流記念式典」を開催し、日中青年の代表者が記念スピーチを発表。両国の青年の絆を深めました。（関連記事4頁）

青年フォーラム

平成29年6月4日～7月30日にかけて、全国4カ所で「青年フォーラム」を開催（後援／文部科学省）。「ひらく明日の私へ」をテーマに、青年実行委員が中心となって大会を運営しました。青年による弁論発表に加え、小学生の作文発表、青年によるダンスや活動紹介など、地域毎に特色を前面に押し出したプログラムで盛況を呈しました。

開催日	開催会場	参加者数
6月4日	南風原町立中央公民館黄金ホール（沖縄）※予選	457
7月9日	大阪ビジネスパーク円形ホール（大阪）	563
7月16日	かごしま県民交流センター県民ホール（鹿児島）	577
7月30日	日本教育会館一ツ橋ホール（東京）	497
合計	全国4カ所	2,094

企業倫理の普及

平成29年度の法人局は、会員企業数10万社体制にふさわしい組織構築をめざし、「地球倫理の推進」「日本創生」を旗印に、アジアを視野に入れた倫理経営の普及・教育に努めました。

倫理法人会は「堅実な普及活動による確実な成果」を実現するため、純粋倫理の学習の場である「経営者モーニングセミナー」や各種研修・セミナーの活性化を図るとともに、倫理経営インストラクター研修を富士教育センターで開催し、倫理経営を真摯に伝える人材の育成に力を注ぎました。また、新たな拠点づくりを推進しました。

倫理経営講演会

「大転換の時代―“新”に挑む―」をテーマに、平成29年1月～5月にかけて全国の倫理法人会で開催しました。事業体験報告や朝礼実演を交え、倫理経営の重要性や、職場に英気と活力をもたらす朝礼の必要性をアピールし、多くの経営者の賛同を得ました。

開催会場	参加者数
676カ所	7万4664名



経営者モーニングセミナー

毎週1回、早朝に全国の市・区単位の倫理法人会で開催しました。参加者は朝型の生活習慣を体得するとともに、各界で活躍する講師の体験談などを聴講し、企業を健全な繁栄へと導く倫理経営についての学びを

深めました。また、会員同士の交流や情報交換も盛んに行なわれました。

開催回数	参加者数
3万3674回	91万7045名

職場朝礼の推進

よりよい社風づくりと社員の資質向上をめざして、活力あふれる職場朝礼を推進しました。朝礼用のテキストである『職場の教養』を毎月200万部発行したほか、朝礼研修に力を注ぎ、朝礼実施企業の増大を図りました。

朝礼研修実施回数	参加者数
158回	2494名



後継者倫理塾

企業の未来を担う後継者の育成を目的に開催しました。純粋倫理の学習と実践を通して、よりよい生活習慣と豊かな人間性、真のリーダーシップを備えた将来の経営者の養成に力を注ぎました。

開催地	開催回数	入塾者数
茨城・新潟・長野・埼玉・千葉・東京・神奈川・石川・愛知・大阪・福岡	年間7～11回	156名

経営者の集い

業態により「経営者モーニングセ



ミナー」に参加できない会員や、新規入会者、入会を希望する経営者を対象に、純粋倫理の学びを深める勉強会を各倫理法人会で定期的に開催しました。

開催回数	参加者数
1410回	2万2265名

講師・幹部の養成

純粋倫理の深い理解と実践力の強化・向上のために、役職者およびその候補者を対象に、継続して「倫理経営基礎講座」を各会で実施しました。また、「経営者の集い」「倫理経



「倫理17000」

真に地域社会へ貢献し、倫理経営を顕著に推進している企業を認定するライセンス制度として平成16年からスタート。平成29年度は新たに14社を認定し、31社の更新審査を実施、認定証を授与しました。

認定企業数
170社



文化芸術活動の普及



入会して間もない中国人の親子も熱心に書道を学んだ（家庭倫理の会小倉）

秋津書道会

手本の学習や古典臨書による捨我の実践と、『自分の言葉を書く』作品づくりにより個性の発揚に力を入れるなど、書道による実践を通して、純粋倫理の学びを深め、生活の浄化と倫理普及に取り組みました。また、地域の公共施設を会場とした書道展や「初めての書道教室」などを開催して、会員に限らず広く参加者を募り活動の輪を拡げました。

会員数	4418名
会場数	276支苑
月刊誌『秋津書道』年間出品者総数	3万456名

しきなみ短歌会

短歌による実践を通して、純粋倫理の学びを深め、生活の浄化と個性の発揚をめざすとともに、倫理普及に取り組みました。また、地域の小中学校における「短歌教室」のボランティアや公共施設で開催する「初めての短歌教室」を通して、地域の

教育力向上に貢献しました。月刊誌『しきなみ』は、年間出詠者総数が6万5000人を超え、短歌結社誌では16年連続で最多となりました。

会員数	5977名
会場数	356支苑
月刊誌『しきなみ』年間出詠者総数	6万5813名



小学校で行なわれた「短歌出前授業」で、子供たちは熱心に短歌づくりを学んだ

台湾

平成28年11月、「中華民國倫理研究学会」の設立30周年記念大会に日本から68名が参加。また同会および「亜細亜台湾企業倫理促進会」へ定期的に講師を派遣し、普及・教育・組織運営を支援。現地で企業研修を実施し、倫理経営実践企業の育成に貢献しました（関連記事9頁）。

アメリカ

「倫理研究所USA（南カリフォルニア倫理の会）」の堅実な組織運営とビーチクリーンなどの対外的な活動を通じ、ロサンゼルスを拠点に日系諸団体・教育関係者へ純粋倫理の浸透を図りつつ、書道・短歌の文化活動を充実させ、日系社会へ倫理普及を進めました。また、平成28年11月に「南カリフォルニア倫理法人会」を設立。日系人経営者層に倫理経営を普及するとともに、「オレングリカウンティ倫理法人会」の設立準備を行いました（関連記事8頁）。「ニューヨーク倫理友の会」は、

ブラジル

「ブラジル倫理の会」は、組織運営の強化とサンパウロを中心にブラジル人への普及を推進しました。併せて書道・短歌の文化活動を通して日本の伝統文化を伝えつつ、ブラジル人の生活の向上に寄与しました。そのほか、「サンパウロ倫理法人会」設立に向けての準備を進めました。

中国

「倫理研究所中国事務所」（北京）を拠点に、中国語版ホームページの充実を図り、諸機関ともタイアップしながら倫理普及を推進しました。

海外の普及

海外組織の育成ならびに国情に応じた倫理普及を展開し、「アジア（世界）のタグボート」として倫理道德の昂揚に寄与しました。

倫理研究所を訪問した「第21回松柏学園・大志万学院訪日使節団」。2年に1度来日し、日本の文化を学ぶとともに、富士教育センターでセミナーを受講し、純粋倫理の学びを深めている



参加者数 (7組) 589名

生活倫理セミナー

「まごころをこめる」をメインテーマに掲げ、「まごころ実践20」のセルフチェックを基軸に、実践時の心に焦点を当てた講座・実習を展開しました。

参加者数 (8組) 908名

会員対象セミナー

生活倫理相談士を対象に開催しました。相談士としての使命を喚起しつつ、自己の課題に取り組む実習を行ないました。



特別企画セミナー

創立70周年および創始者生誕120年を記念して制作した映像全8章の鑑賞と解説をメインに、倫理運動の草創期とその時代背景を史実に基づき学修しました。

参加者数 (4組) 215名

企業倫理セミナー

経営者倫理セミナー

集団行動を通じてチームワークの形成と徹底した自己凝視を図りました。年齢やキャリアを脱して行なう相互研鑽とケーススタディから、倫理経営の実践力向上をめざして講座・実習を展開しました。初参加者



「中学生・高校生セミナー」では、富士の大自然を肌で感じる実習を通して、伸び伸びと倫理を学んでいく

倫理を学ぶ多彩なセミナー

富士山麓の自然豊かな富士高原研修所において、家庭倫理の会の会員を対象とした「生活倫理セミナー」、倫理法人会の会員企業の経営者や社員を対象とした「企業倫理セミナー」、小学生と保護者を対象とした「小学生親子セミナー」など、各種セミナーを開催しました。

青少年育成セミナー

小学生親子セミナー

小学生は「学び・遊び・繋」、保護者は「こどもを信じる」をテーマに学修しました。富士山トレッキングをはじめとする親子で行なう実習や、施設周辺の豊かな自然環境の中で伸び伸びと過ごしながら、子供の自立心や協調性を養う実習を行ないました。(平成29年8月開催)

参加者数 (3組) 250名

中学生・高校生セミナー

中学生と高校生を対象に、講義のほかに富士宝永登山やチーム創作発表会(即興芝居)などの実習を通して、あきらめずに挑戦することや自分の意思をはっきり相手に伝えること、どんな人とも協力し合う心の大切さなどを体験的に学修しました。(平成29年7月開催)

参加者数 51名(中学生28・高校生23)



が受講者数の半数を占めました。

参加者数 (10組) 988名



社員倫理セミナー

幹部社員・一般社員を対象に、自社における「活力朝礼」の積極的な運営方法や、日常業務の改善・向上の原動力となる恩意識の深化を主軸に講座と実習を展開しました。

幹部社員参加者数	(4組) 158名
一般社員参加者数	(4組) 151名

新入社員倫理セミナー

社会人として第一歩を踏み出した

自主企画セミナー

国内外の倫理法人会会員企業が、1社単独で企画・実施できるセミナーを5組開催しました。いずれも日常の業務における処理力の向上と改善に直結するプログラムを実施しました。

参加者数 (3組) 336名



出版物の刊行

倫理運動の普及推進に資する出版物の刊行を
各部門と連携して行ないました。

定期刊行物

月刊誌

『新世』

生涯学習総合誌として、夫婦、親子、嫁姑、職場の人間関係を円滑にし、よりよく生きるポイントとなる記事を掲載。各世代の読者層に純粋倫理をアピールしました。

人生の指針となる丸山敏秋理事長の巻頭論文「新世言」、『万人幸福の栞』十七カ条を基盤とした「明日へのエール」、子女名優の視点による「わくわく子育て親育ち」、アメリカや台湾ほか海外の倫理活動を紹介する「グローバル時代の倫理運動」などのレギュラー記事のほか、毎号の「特集」では、社会の時流に添った



テーマを取り上げました。「実践の軌跡」では、主に子育て、疾病、夫婦関係、職場の人間関係、事業経営に関する手記を掲載し、それぞれ解説を加えました。

通 巻	828号～839号
発行部数	205万3100部

『倫理』

純粋倫理の基礎的・専門的研究、倫理文化の専門的研究に関する諸論考を掲載しました。（関連記事17頁）

通 巻	765号～776号
発行部数	9万2300部



『倫理研究所紀要』（年刊誌）

純粋倫理の基礎的・専門的研究、

倫理文化に関する専門的研究など、多様な研究成果を発信しました。

（関連記事17頁）

通 巻	第26号
発行部数	1550部



『職場の教養』

多岐にわたる話題・事例を題材として、職場人としての行動指針を提供しました。朝礼での活用を通じて自己を見つめ直し、職場や家庭で実行できるよう、分かりやすい文章表現に留意しました。

通 巻	489号～500号
発行部数	2413万部



『秋津書道』

「秋津書道会」の創設者・丸山敏雄の書を学ぶ会員の相互研鑽の場として、初心者から上級者まで各々の書境向上に資する内容の提供に努めました。

通 巻	764号～775号
発行部数	6万6250部



『しきなみ』

「しきなみ短歌会」会員の毎月の作品発表の場として、歌境向上に資する内容の提供に努めました。出詠者数5400名の短歌誌です。850号（1月号）より誌面を刷新し、投稿作品は厳選して掲載。より読みやすくするとともに、連載企画・表紙も一新しました。

通 巻	846号～857号
発行部数	8万5100部



隔月刊誌

『倫理ネットワーク』

倫理法人会会員各位が、事業経営および倫理法人会活動において高い意識を維持できるよう、倫理経営の要点を学ぶテキストや法人局の方針と連動した記事を掲載しました。

通 巻	122号～127号
発行部数	56万1000部

月刊紙

『倫研新報』

倫理研究所の主要事業・行事および、全国の家庭倫理の会、倫理法人会、海外の活動の報告記事を掲載しました。主だった記事としては、「富士教育センター開設50周年式典」や「倫理研究フォーラム」、「家庭倫理講演会」「子育て正副委員長研修」「子育てセミナー」といった家庭倫理の会の諸行事や、会員社数全国10万社達成に向けた倫理法人会の取り組み、南カリフォルニア



書籍

新刊本

『つながる』

丸山敏秋著
インターネットの普及により、誰もが即時に世界とつながることのできる現代社会ですが、一方、希薄になりつつある「つながり」があります。夫婦、親子、人と人、人と自然など、あらゆる「つながり」につ

通 巻	710号～721号
発行部数	150万1650部



いて問い、よりよく生きるための指針を示しました。（家庭倫理講演会・倫理経営講演会推薦図書）

『生と死 倫理文化研究叢書6』

倫理研究所編

倫理運動創始70周年を記念し「倫理文化研究センター記念シンポジウム」が開催されました。本書はその記録集です。日本、中国、韓国の研究者10名の発表と質疑応答、討論会によって構成しました。

（関連記事17頁）



会員の構成

会員は倫理研究所の趣旨に賛同し、倫理運動に参加する意志のある個人と法人によって構成されています。個人会員の組織を「家庭倫理の会」、法人会員の組織を「倫理法人会」と称します。ほかに文化芸術活動を行なう「秋津書道会」「しきなみ短歌会」があります。

会員数（公称 /2017 年 8 月末現在）

家庭倫理の会	160,000 名
倫理法人会	65,000 社
秋津書道会	4,400 名
しきなみ短歌会	6,000 名

会費（月額）

個人	500 円
賛助	1,000 円
協賛	3,000 円
特別賛助	10,000 円
法人	10,000 円（1 口）

秋津 会員	1,500 円
〃 （ジュニア会員）	800 円
しきなみ 会員	1,000 円
〃 （ジュニア会員）	500 円

組織概要

名 称 一般社団法人倫理研究所
 英文名称 RINRI Institute of Ethics
 理事長 丸山敏秋
 常任理事 前川朋廣／徳江秀雄／内田文朗
 理 事 11 名
 監 事 2 名
 職 員 159 名
 所在地 〒102-8561
 東京都千代田区紀尾井町 4-5
 TEL 03-3264-2251 FAX 03-3239-7431

創 立 1945 年 9 月 3 日（倫理運動創始の日）
 1948 年 10 月 30 日に社団法人設立許可
 2013 年 9 月 2 日に一般社団法人へ移行
 目 的 倫理の研究並びに実践普及により、生活の改善、道義の昂揚、文化の発展を図り、もって民族の繁栄と人類の平和に資する。

- 事 業
1. 社会教育事業
 2. 研究事業
 3. 出版・広報事業
 4. 文化事業
 5. 地球倫理推進事業

ホームページ <http://www.rinri-jpn.or.jp>

組織概要

創始者・丸山敏雄

1892（明治 25）年 5 月 5 日、福岡県豊前市生まれ。広島高等師範学校を卒業し、師範学校などの教諭として奉職。37 歳で広島文理科大学に入学。日本の精神文化、歴史を探究するとともに、書道や短歌など芸術分野でも研鑽を積む。1938（昭和 13）年に「秋津書道院」、1946（昭和 21）年に「しきなみ短歌会」を創設。さらに、長年にわたる宗教や道徳などの研究を土台に、自らの実践、体験を積み上げながら、「人間生活のすじみち」を研究し続け、それを純粋倫理と名づけた。その後、数多くの論文を発表しながら純粋倫理を体系づけることに力を注ぐ。

1945（昭和 20）年に倫理運動を興し、翌年、「新世文化研究所」（現・倫理研究所）を創立。自ら陣頭に立ち、一人でも多くの人に純粋倫理を伝えるべく、教育や講演、研究、執筆に身命を賭す。『万人幸福の栞』『無痛安産の書』『人類の朝光』など著書多数（すべて新世書房刊）。

1951（昭和 26）年 12 月 14 日逝去。



新装丁

『結婚叢書』

丸山敏雄著

昭和から読み継がれる 3 冊セット（『美しき妻の生きかた』『無痛安産の書』『育児の書』を、箱のデザイン、各書の装丁を刷新しました。

『万人幸福の栞』

丸山敏雄著

表紙を黒からブラウン、パールホワイト、ブルーの 3 色に刷新し、総ルビ（振り仮名）を改め、独特の読み方や読みにくい漢字にのみルビを振りました。また、表紙を開いたところに、斉唱用として十七カ条のページを設けました。

手帳・カレンダー

『実践手帳 2018』

「爽やかなパールホワイト」と昨年度に引き続き「華やかなピンク」を発売（表紙デザインは変更）。週間予定の上部には、既刊書籍より、純粋倫理のエッセンスをセレクトして掲載しました。

販売部数 1 万 1 1 6 0 部

『2018 標語カレンダー 今日の道しるべ』

31 日分の標語とワンポイントアドバイスを併せ、毎日の倫理実践を促します。

販売部数 15 万 4 4 8 2 部

「よいこと」は
先駆けて行なう

「おはよう」「有難う」の一言や相手を尊ぶ行動で、家庭は和み、職場が潤っていく。その一歩に何の道徳もいらない。

今日の道しるべ

沿革

- 1945 年 丸山敏雄、論文「夫婦道」起稿。倫理運動を創始。
- 1946 年 「新世文化研究所」設立（初代所長、丸山敏雄）。
- 1947 年 「新世会」設立。
- 1948 年 「新世会」が社団法人の許可を受ける。
- 1949 年 「朝の集い」開始（上野、神田、銀座、市川）。
- 1951 年 「新世会」を「倫理研究所」と改称。丸山敏雄逝去。
丸山竹秋、理事長に就任。
- 1966 年 富士高原研修所竣工。
- 1967 年 中日支所設立、支所体制がスタート。
- 1973 年 アメリカ・ロサンゼルスに拠点開設。
- 1980 年 千葉県に第1号の倫理法人会発足。
- 1985 年 丸山竹秋が「地球倫理の推進」を提唱（創立40周年記念大会にて）。
- 1986 年 中華民国（台湾台中市）に拠点開設。
- 1987 年 第1回日中実践倫理学討論会開催。
- 1989 年 丸山竹秋、藍綬褒章受章、社会教育功労者表彰。
- 1990 年 倫理法人会1万社達成記念大会開催。
- 1992 年 丸山敏雄生誕100年記念大会開催。
- 1995 年 創立50周年記念大会開催。丸山竹秋が地球倫理推進の運動方針「アジアのタグボート」を発表。
- 1996 年 丸山敏秋、理事長に就任。
- 1998 年 第1回地球倫理推進賞贈呈式開催。倫理資料館竣工。
- 1999 年 創立55周年記念中国クブチ沙漠「地球倫理の森」創成事業スタート。丸山竹秋逝去。
- 2000 年 ブラジル・サンパウロに拠点開設。
- 2001 年 新富士高原研修所グランドオープン。
- 2004 年 個人会員組織を「支所」から「家庭倫理の会」に改称。「朝の集い」を「おはよう倫理塾」に改称。
- 2005 年 創立60周年記念式典、青年フォーラム21全国大会開催。
- 2006 年 創始者生家（復元）竣工。第1回しきなみ子供短歌コンクール表彰式を開催。
- 2007 年 倫理法人会5万社達成記念大会開催。
- 2008 年 第1回日中青年沙漠緑化交流開催。
- 2009 年 「地球倫理の森」創成10周年記念大会開催。
- 2010 年 日中実践倫理学討論会2010開催。
- 2011 年 富士教育センターオープン45周年記念式典開催。
グランドデザイン完成。
- 2013 年 一般社団法人へ移行。
- 2014 年 教育再生フォーラム、地球倫理の森創成15周年記念式典開催。長年の沙漠緑化活動が「第6回中国環境発展要人フォーラム」で表彰される。
- 2015 年 「地球倫理の森ウランブハ」創成事業スタート。教育創生フォーラム開催。創立70周年記念全国青年弁論大会、日本創生フォーラム開催。
- 2016 年 倫理法人会全国代表者大会開催。台湾に亜細亜台湾企業倫理促進会設立。本部移転。
南カリフォルニア倫理法人会設立。富士教育センター開設50周年記念式典開催。

主要施設



倫理研究所（本部）

倫理運動推進の本部として、研究・普及・教育・企画・出版・広報などの各種業務を行なっています。
〒102-8561
東京都千代田区紀尾井町4-5

富士教育センター

純粋倫理の理論的・実践的学習の場として、小学生から成人までを対象にした各種セミナーを行なっています。センター内には、富士高原研修所・富士倫理学苑・富士万葉植物園・丸山敏雄記念館があります。



〒412-0008
静岡県御殿場市印野1383-9

天和会館

倫理運動の創始者・丸山敏雄の生家（復元）に隣接した会館。主に倫理研究所の研修施設として活用されています。



〒828-0081 福岡県豊前市大字天和392

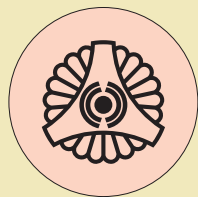
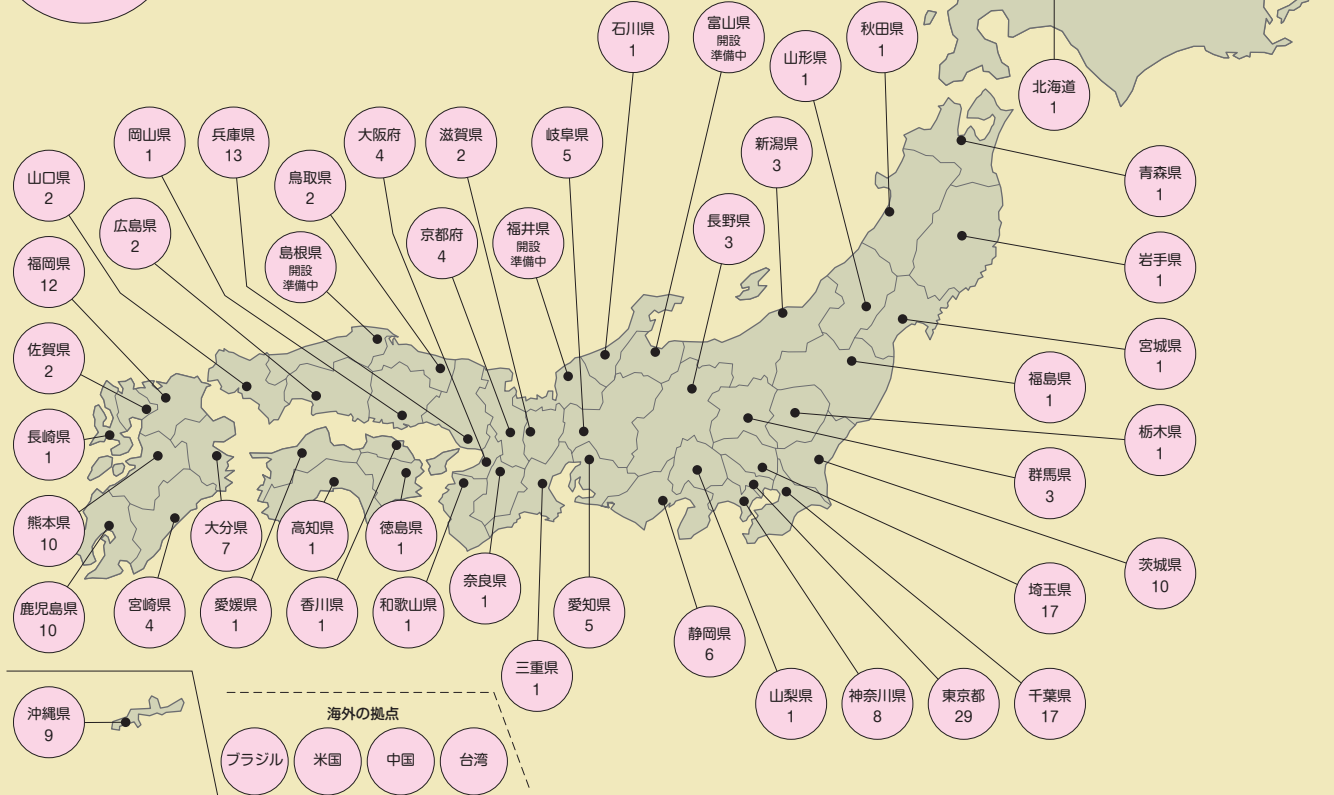
倫理資料館

創始者の遺品・遺墨、倫理・道徳に関する専門図書のほか、倫理運動史料や記録などの蒐集・保存整理を行なっています。
〒180-0022
東京都武蔵野市境5-6-25



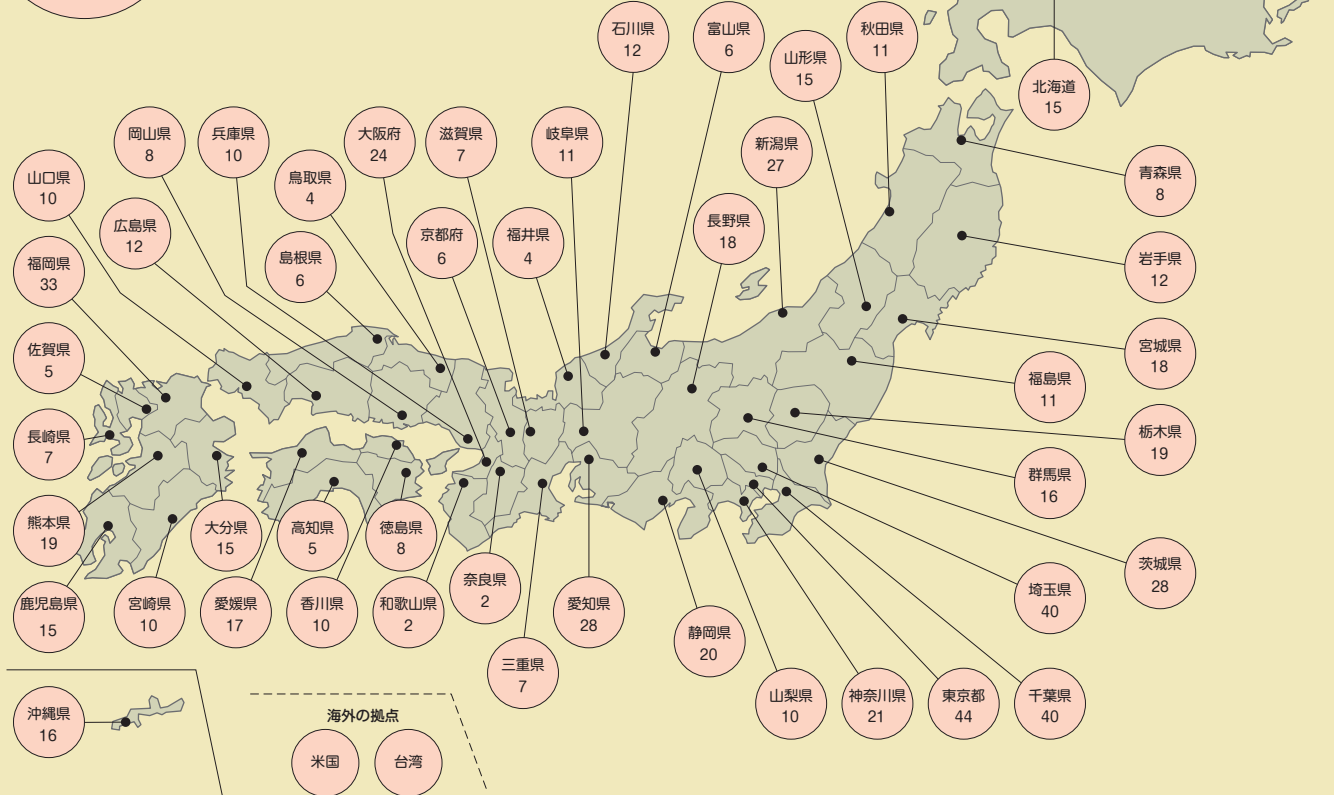
都道府県別拠点数（2017年8月末現在）

日本全国に208の家庭倫理の会があります。



都道府県別拠点数（2017年8月末現在）

日本全国に692の倫理法人会があります。





一般社団法人 倫理研究所

〒102-8561 東京都千代田区紀尾井町4-5 TEL 03-3264-2251
ホームページ <http://www.rinri-jpn.or.jp>

発行：一般社団法人倫理研究所 編集：倫理研究所広報部 発行日：2017.11.22